

27. 後腹膜・腹膜腫瘍

○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん  
 ※別紙5に入力した内容が反映されています。  
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制  
 ○: あり ×: なし

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数			治療の実施状況 (○: 実施可 / ×: 実施不可) / 昨年の実績 (あり/なし) ※平成25年1月1日～12月31日			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
							治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1	産婦人科	9	5	状況	○	○	腹膜癌もしっかりと組織診断を行い、的確な治療を施行しています。	ア	http://			
				実績	あり	あり		なし	イ	http://		
2	消化器外科	11	2	状況	○	○		ア	http://			
				実績	あり	あり		なし	イ	http://		
3	消化器内科	19	2	状況	×	×	後腹膜腫瘍の診断にはEUS-FNAで、腹膜癌に対しては腹水穿刺や腹腔鏡による確定診断を行い、消化器センター外科や婦人科と連携して治療を選択しています。	ア	http://			
				実績	なし	なし		なし	イ	http://		
4	放射線科	8	2	状況	×	×	放射線治療とは、臓器を守りながら「がん細胞」に放射線を照射し、縮小させる治療法のことです。様々な療法がありますが、各診療科医師と協同してその時に最適な放射線治療を行うようにしております。	ア	http://			
				実績	なし	なし		なし	イ	http://		
5				状況				ア	http://			
				実績					イ	http://		

例: 後腹膜腫瘍、腹膜腫瘍 昨年の治療実績ありの疾患名 ※平成25年1月1日～12月31日 後腹膜腫瘍、腹膜がん
---